



目黒区美術館の保存活用に関する提言

目黒区長 青木英二 様

2023年9月 日

公益社団法人 日本建築家協会(JIA)
関東甲信越支部 支部長 渡邊 大海
同 保存問題委員会 委員長 太田 安則
同 目黒地域会 代表 伊藤 正



拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。貴区におかれましては、日頃より当会の活動に格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

SDGs精神や多くの区民の声に応えるべく、私たち日本建築家協会は、まちづくりや再開発の専門家として、現目黒美術館の継続活用とそのための課題点の解消についての提案をします。

世界は経済効率最優先から環境配慮が最優先という時代に急速に移行しており、都市の低炭素化の促進においても、建物の運用カーボン差し引きゼロとするカーボンニュートラルから、建物の新築から取り壊し廃棄までのライフサイクルを通じた、カーボンゼロを目指すネットゼロが共通目標に進んでいます。新築時やランニングコストにとどまらず、解体、廃棄時のエネルギーやCO2を含んだ評価が求められているのです。公共建築の耐用年数は65年で、その時期には解体して作り替えるといった固定観念は社会的に修正を迫られており、壊さずに使えるものは長く使うということが常識になってきていることも考慮すべきだと思います。このことは環境問題にとどまらず、建物のトータルコストの削減にも繋がります。一例ですが、港区郷土歴史館「ゆかしの杜」は、昭和13年に竣工した築85年の歴史的建物を壊さずに改修したもので、郷土歴史館を中心とした複合施設として再整備し有効活用が始まっています。

美術館を残すにあたり、大きな懸念として、現美術館の地下にある空調機械室、電気室の、目黒川の氾濫による浸水被害が指摘されています。そこで、保存改修するにあたり、現美術館は現状の設備諸室を維持継続するのではなく撤去、美術館以外の公共施設を集めた新複合棟の安全な階に新しい機械室、電気室を設置し、そこから、空調と電気の供給を受ける方式に盛り替えることを提案します。これにより美術館の熱源、電源の安全は確保され、美術館の1次エネルギー消費量の削減も同時に図れます。また、それによって空いたスペースは「新しい美術館機能」として求められている、開かれた学びのスペース、工房や、ワーキングルームと言った場所として有効活用すれば、更なる美術館の魅力アップに貢献できます。

仮に新しく作る建築に美術館を組込むとしても、いずれにせよ設備機械および諸室は必要なので、この提案によって大きな区の負担増とはならないはずです。

美術館を継続使用する大きなメリットに何年にもわたる休館期間をなくせる可能性があることも挙げられます。所蔵する美術品の仮保管費用や建築と一体となった美術の保全などのメリットに加え、行政サービスとして区民の芸術活動の場を途切れさせることのない、思いやりある方策が可能になります。

美術館独自の設備機械室を持たないということは、懸念している今後の美術館の維持費及び大規模修繕費の大幅削減にも貢献します。ライフサイクルコストにおける設備関係の維持管理費はとても大きな比重を占めるからです。

現美術館は築36年ですが、令和3年、4年に行われた5000万円弱ほどの設備修繕以外に大規模修繕を行っていません。一般的には25年ほどで建築を含めた大規模修繕が必要となりますが、それを行わなくても済んだ堅牢な建物であったわけです。外壁も御影石張り外断熱の二重構造になっており、屋上にも設備機器はなく防水工事も容易に行える、維持費の掛からない仕様の設計になっていますので、今後とも、区が想定するような大きなコスト負担とはならないと考えます。区は、現美術館を今後35年間使い続けると建物の維持費が約130億円にもなると公表していますが、2回行うとしている大規模修繕工事費の想定は83億円、一回につき40億円強というのは美術館全体で1230坪ほどの規模に対して、床面積あたり工事費が坪325万円を超えるという、あまりに高すぎる試算になっています。そもそも、維持費が130億となる前提条件は、今回の事業にて現美術館は改修を行わない条件でしょうか？今後の維持費の低減するためには、現美術館も同時に設備などの改修をすべきで、その場合の維持管理費を示していただき、それと美術館を解体して複合一体的な計画(素案)とを比較した内容をお示し下さい。

公園の緑に溶け込み、静かに落ち着いて作品を鑑賞することができる現美術館の魅力を保ちながら、新区民センターを訪れる様々な利用者がより気軽に美術館に立ち寄れるための改善策として、新センターのエントランスや共有スペースと現美術館を繋げる全天候型の通路或いはブリッジなどを提案します。

そうすれば、新センターでの区民の作品展示などの機会も増え、センター内の諸機能と美術館の関係強化に貢献するでしょう。

最後に、この提言書と同じ内容を先のパブリックコメントにも投稿いたしました。パブコメへの回答と言った形にとらわれず、真の対話の機会を望みます。また日本建築家協会は建造物の保存、活用技術や活用の事例紹介、提案など相談いただければ、区民の方々と共に出来る限りの協力をさせて戴く所存であることを申し添えます。

敬具